

置物

瑞鳥小宮

靈芝模様丸宮

壁面への鏡

花盛器

鍛金部

衝立

飾壺

果物盛

鑄造科

噴水

孔雀(室内裝飾品として)

アフリカ象(室内裝飾品として)

音楽室ノ壁面裝飾

或る噴水の裝飾の一部

漆工科

棚(寒椿)

洋酒棚

キャビネット

飾篋(啼鳴)

手許棚(はるのよひ)

乾漆八角盛器

箱

圖書師範科

本科

傍島 實

後藤 年彦

荒木 敬藏

東原 卓馬

本島 高明

本科

上野義三郎

三井安蘇夫

柴田 武次

本科

武田 武文

中垣 秀吉

武藤 太郎

眞鍋 知道

末吉 菊磨

本科

北村 久造

宮井 漣平

宮崎 九藏

新村 撰吉

入山平太郎

姜昌奎

宮林莊七郎

岐阜

東京

福岡

香川

東京

香川

東京

東京

新潟

新潟

石川

石川

福岡

石川

石川

奈良

三重

京都

石川

新潟

朝鮮

尚南道

富山

一井 増郎

長谷川信也

大部 正規

谷口彌壽雄

高田 廣喜

竹内 博

筒井 茂雄

村上 英一

野口 二郎

小島 勇

北野 熊雄

東京

東京

福岡

三重

山口

福島

佐賀

栃木

東京

岐阜

熊本

林 左門

西野 英二

神田八十六

鷹尾 和敏

田中 甚吉

土屋 一勇

竝木 哲男

上野 省策

桑原 實

佐藤 長生

榛葉嘉一郎

大坂

神奈川

長野

福岡

福島

静岡

千葉

新潟

新潟

大分

静岡

『校友会会報』記事抜粋

學校記事「一」<sup>号</sup>。S・九・七・七<sup>日</sup>

職員辭令

昭和八年三月十一日

各通

教授 岡田三郎助

同 和田 三造

同 六角注多良

同 津田 信夫

工藝審査委員會委員被仰付 内閣

同年同月十五日

敘正七位 宮内省

教授 小泉 勝爾

同年同月十六日

各通

講師 今 和次郎

各通

助教授 松田 義之

依願解囑

同 齋藤 佳藏

教員檢定委員會臨時委員被仰付 内閣

講師 鈴川 信一

教務上ノ都合ニ依リ解囑

同 吉野 富雄

同年同月十八日

步兵第一聯隊附陸軍歩兵中佐 石川 吉郎

依願免本官 内閣

助手 八木橋伊佐雄

東京美術學校服務ヲ免ス

補近衛歩兵第二聯隊附 陸軍省

同年四月十日

願ニ依リ助手ヲ解ク

野砲兵第一聯隊附陸軍砲兵中佐 奥野 由郎

各通

入谷 昇  
磯矢 陽

同年同月二十七日

東京美術學校服務ヲ命ス 陸軍省

書記 谷本千代雄

本校講師ヲ囑託ス

同年同月十一日

文官分限令第十一條第一項第四號ニ依リ休職ヲ命ス 文部省

同年同月三十一日

同年四月十三日

任東京美術學校書記 文部省

各通

從五位勳五等 水谷 鐵也

伊原宇三郎

敘正五位 宮内省 特旨ヲ以テ位一級被進

任東京美術學校助教 文部省

深瀬 嘉臣

同年同月十四日

各通

内藤 春治

水谷 鐵也  
蒔田 宗次  
高島 米峰  
高橋 義雄

任東京美術學校書記

依願免本官 文部省

本校講師ヲ囑託ス

各通

同年同月十八日

教授兼 和田 季雄  
生徒主事

亞米利加合衆國へ出張ヲ命ス 文部省

同年同月二十二日

教授 渡邊 啓三

文官分限令第十一條第一項第四號ニ依リ休職ヲ命ス 文部省

同年同月二十六日

教授 沼田勇次郎

佛蘭西國政府ヨリ贈與シタル「シユヴアリエー、ド、ロルドル、  
ナシヨナル、ド、ラ、レジヨン、ドノール」勳章ヲ受領シ及ビ佩  
用スルヲ允許セララル 賞勳局

〔同年〕五月十日

休職助教授 長野 新一

休職期間滿了

同年五月二十五日

正四位勳三等 和田 英作

史蹟名勝天然記念物調査委員會委員ヲ依嘱ス 文部省

比田井元子

本校講師ヲ囑託ス

同年六月一日

助教授 松田 權六

歐洲各國へ出張ヲ命ス 文部省

同年七月一日

教授 津田 信夫

各通

同 清水 龜藏  
同 矢代 幸雄

陸絛高等官三等 内閣

雇 村瀬 健爾

依願解雇

〔同年〕七月六日

教授 矢代 幸雄

亞米利加合衆國及加奈陀ヨリ歸朝

同年七月十五日

教授 津田 信夫

各通

同 清水 龜藏  
同 矢代 幸雄

敘從五位 宮内省

同年七月二十日

石澤 正男

本校講師ヲ囑託ス

同年七月二十六日

教授 多賀谷健吉

昭和八年、文部省視學委員ヲ囑託ス 文部省

〔同年〕八月三日

教授兼 和田 季雄  
生徒主事

亞米利加合衆國ヨリ歸朝

教授 森井 健介

實業學校卒業程度檢定委員會委員ヲ囑託ス 文部省

同 年同月十五日

各通

教 授 六角注多良  
同 津田 信夫

各通

教 授 清水 龜藏  
助教授 廣川松五郎  
講 師 杉田 精二

昭和八年商工省輸出工藝展覽會審查委員ヲ囑託ス  
同 年同月十六日

帝國美術院美術展覽會審查員被仰付  
同 年十月二日

内閣

各通

助教授 松田 義之  
講 師 鈴川 信一

死去

休職書記 谷本千代雄

教員檢定委員會臨時委員被免  
同 年九月一日

同 年同月十六日

從四位勳四等 沼田勇次郎

敍從四位 宮内省

教 授 沼田勇次郎

正四位 特旨ヲ以テ位一級被進  
同 年同月三十日

教 授 平福 貞藏

敍勳四等授瑞寶章 賞勳局  
同 年同月二十一日

休職書記 芹澤 閑

同 年十月三十日

沼田勇次郎

休職期間滿了  
同 年同月三十日

教 授 沼田勇次郎

工藝科塑造授業ヲ囑託ス  
同 年十一月一日

教 授 田邊 至

依願免本官 内閣

教授兼 和田 季雄  
生徒主事

陞敍高等官五等 内閣  
同 年同月十五日

教 授 田邊 至

依願免本官並兼官 内閣

講 師 高橋 義雄

敍從六位 宮内省  
同 年同月二十八日

助教授 高村 豊周

依願解囑

從四位勳四等 沼田勇次郎

任東京美術學校教授 內閣 敘高等官七等

講師 香取秀治郎

同 年同月十四日

東京美術學校事務ヲ囑託ス

任東京美術學校教授 內閣 敘高等官四等

同 年十二月一日

助教授 松田 權六

同 年同月十九日

文部省在外研究員 海野 清

歐洲各國ヨリ歸朝

同 年同月十二日

講師 關野 貞

同 年同月二十日

依願解雇

雇 鳩ヶ谷敏治

各通

同 小場 恒吉

各通

朝鮮總督府寶物古蹟名稱天然記念物保存會委員被仰付 內閣

同 年同月十五日

教授 香取秀次郎

同 年二月一日

本校講師ヲ囑託ス

囑託 沼田勇次郎

敘正六位 宮内省

教授 高村 豊周

本校講師ヲ囑託ス

講師 澤口 悟一

敘從七位 宮内省

同 年同月十五日

粕谷 仲三

同 年同月十五日

敘從六位 宮内省

正六位勳四等 奥野 由郎

各通

古俣 靜江

同 年同月二十八日

敘從五位 宮内省

雇 古俣 靜江

東京美術學校雇ヲ命ス

昭和九年一月九日

教授 結城 貞松

同 年三月三日

依願解雇

敘勳三等授瑞寶章 賞勳局

同 年同月十一日

下村 英時

各通

講師 鈴木 信一

助教授 松田 義之

教員檢定委員會臨時委員被仰付 内閣  
同 年三月十日

依願解雇  
同 年同月十二日  
雇 井上みちよ

東京美術學校雇ヲ命ス

同 年同月十五日

書記 北浦 大介

敍從七位 宮内省

同 年同月三十一日

各通

西問木久郎  
黒岩 吉三

東京美術學校雇ヲ命ス

同 年四月四日

教授 岡田三郎助

各通

同 六角注多良

同 津田 信夫

同 海野 清

工藝審査委員會委員被仰付 内閣

同 年同月十三日

木村得三郎

本校講師ヲ囑託ス

同 年五月一日

陞敍高等官六等 内閣

敍正七位 宮内省

同 年同月十五日

教授 海野 清

敍正七位 宮内省

同 年同月十八日

宮地 常助

園藝ニ關スル課外講義ヲ臨時囑託ス

同 年同月二十一日

前川 春二

東京美術學校雇ヲ命ス

同 年同月三十一日

教授 六角注多良

敍勳六等授瑞寶章 賞勳局

告別工藝科學生諸君辭

渡邊 啓三

春風駘蕩柳色新なるの時、力強く新學年の課程に進まれる諸君の榮光を御欣び申します。扱私は此度教壇を去り諸君と御別れすることになりました。願れば私の職を奉じたのも随分以前の事で春花秋月十有餘年只驚鈍に鞭ちて職責の重きを感じつゝ務にいそしみ來つたのでありますが、何等業績の擧らなかつた事は眞に慙惶の至りに堪へません。所縁ありて諸君と相識り學窓に机を並べて日夕に筆を執

り談を交へ親しく且つ楽しく課業を進め來つたことは實に私の幸福でありました。時には面倒な事を言うたことでした。又時には小言も云つたと思ひます。それでも教室の空気がいつもなごやかであつたと思つてをります。私の至らぬ技盡さぬ言葉をも尙耳を假し目を留めて専念に勵まれたことはまことに世に難有事と感謝してをります。長い間の御馴染ではあり又今後も御目に懸ることと思ひますので無言で去るのは氣が濟みません。技につゝしみて不行届の御託やら御世話になつた御禮やら又不相變の御願やらを兼て一ト言御挨拶<sup>挨拶</sup>を申述べた次第であります。諸君のます／＼御機嫌よく精一ぱいの御奮勵を只管に御禱して御暇を申します。

左様なら 昭和八年四月三十日認む

文部省告示第百六十七號

明治三十六年文部省告示第三十號教員無試験檢定ニ關スル指定學校名及學科目中左ノ通改正ス

(中略) 昭和八年四月七日

東京美術學校ノ項ヲ左ノ如ク改ム

文部大臣 鳩山 一郎

- 東京美術學校
- 元西洋畫科
- 元圖案科
- 日本畫科
- 油畫科
- 工藝科圖案部
- 建築科

圖畫

本科在學中學校所定ノ教員志望者課程ヲ兼修セシ者ニ限ル

彫刻科

- 彫金部、鍛金部
- 工藝科 鑄金部、漆工部

手工(同前)

生徒心得中改正

昭和八年七月十日主任理事會に於て、本校生徒心得に、左の二條を入れることを決定せり。

○公私ノ展覽會へ出品シ得ルモノハ本科第三學年以上ノ生徒ニ限ル  
本科第二學年以下及圖畫師範科ノ生徒ハ公私ノ展覽會ニ出品スルコトヲ得ズ



昭和8年運動會余興スナップより  
工芸部子科生の「南洋踊り」

	漆工	科目
高村助教	六角教授 山崎助教 磯矢講師	講師
	自七月十日(月) 至七月十五日(土)	期間
	十人	定員
	約参圓	材料費
	漆工部教室	教室

○研究ノ爲ニ生徒相互ノ展覽會ヲ開カントスルトキハ豫メ指導教官ヲ定メ本校ノ許可ヲ受クベシ  
但豫科生徒ハ之ニ参加スルコトヲ得ズ  
昭和八年夏期特別實習



同 油画科2年生の仮装

鑄金	木工	鍛金	木彫	彫金
内藤助教 丸山講師	松田助教	石田教授	關野教授 羽下講師	清水教授 深瀬助教
同	同	同	同	同
十人	十人	五人	十人	十人
約参圓	約参圓	約参圓	約参圓 外ニ道具買求費 金参圓位ヲ要ス	約参圓
鑄金部教室	師範科教室	鍛金部教室	木彫部教室	彫金部教室

通則

實習時間 毎日自午前八時  
至午後四時 土曜日ハ正午迄

講習料 不要

材料費 申込ノ際豫納スヘシ、剩餘ヲ生シタルトキハ返戻ス

講習者資格 其科部以外ノ職員生徒ニ限ル

査閲慰勞茶話會

毎年一回秋季に於て行はるゝ教練査閲は、今迄學校の運動場狹隘のため、帝室博物館の空地を借りて行つて來たが、今年は幸ひ運動場が廣くなつたので、學校で行ふこととなり、十一月二十四日、第一旅團長陸軍少將永田鐵山閣下の査閲を受け相當の成績を收めた。越えて十二月七日午後和田「英作」校長は査閲に分隊長以上の幹部を動めた生徒を會議室に招いて、慰勞の茶話會を開かれた。因にこの種の慰勞會は、前年新校長就任後始めて催された新例である。

関連事項